

介護老人保健施設「寿生苑」入所者の最近 3年間のパルスオキシメトリの臨床経験

こ ばやし ま さ お¹⁾ き さ たか し¹⁾ み かみ ひさし¹⁾
小 林 真佐夫¹⁾ 木 佐 高 志¹⁾ 三 上 尚¹⁾
つち や はる ひさ¹⁾ まつ ばら やす ひろ²⁾
土 谷 治 久¹⁾ 松 原 康 博²⁾

キーワード：パルスオキシメトリ，指先動脈血酸素飽和度，SpO₂

要 旨

最近3年間のパルスオキシメトリ SpO₂を次の5項目について結果を報告する。1) SpO₂の頻回測定。入所者の65.5%の人は1日1回，SpO₂の測定を受けたことになる。2)室内気吸入で呼吸正常群 (95% SpO₂ 99%) では誤嚥性肺炎発症者数は0であった。3)在宅酸素療法群の測定回数。4) SpO₂の3器種の50日間の各々の測定値平均は，器種間で1~2%の差が認められた。5)島根県立中央病院救命救急センターに搬送された患者100症例の SpO₂と動脈血酸素飽和度 SaO₂の間には，統計学的に正の相関が認められた。

パルスオキシメトリは非侵襲で，オンラインで，リアルタイムに動脈血酸素飽和度を測定できるメリットを有しているが，その精度については原理的に弱点がある。本法は単独で使用するのではなく，臨床所見，他の検査データなども併せて総合的に判断し，使用するならば，臨床的に極めて有用である。

はじめに

島根医学 Vol.27 No.1 2007に，われわれは“介護老人保健施設「寿生苑」入所者の前期2年間と後期2年間の誤嚥性肺炎の統計学的検討，及びその予防戦略¹⁾”を発表した。前期と後期の誤嚥性肺炎発症者数の間には，危険率5%で統計学的

有意差をもって，後期に減少が認められた。かつ，両群間の種々の背景因子には統計学的有意差は認められなかった。

前期と異なり，後期においては以下のことなどが実施された。1)言語聴覚士の常勤。2)嚥下体操の導入。3)口腔ケアのより徹底化。4)指先パルスオキシメータによる動脈血酸素飽和度 SpO₂の全職員による頻回の測定。5)管理栄養士，給食部門の食物形態の工夫と迅速な対応。6)摂食嚥下障害に対する職員の理解度の向上などが認められた。

今回は上記の4)に，もう1年間のデータを追加

Masao KOBAYASHI et al.

1) 医療法人寿生会 介護老人保健施設「寿生苑」

2) 島根県立中央病院救命救急科

連絡先：〒693-0022 出雲市上塩冶町2319-2